



「立皇嗣の礼に際し賢所皇霊殿神殿に謁するの儀」(写真提供:宮内庁)



広島県神社庁報

ふたば

二葉

第143号

発行所 広島県神社庁
広島市東区二葉の里
☎ (082) 261-0563
FAX (082) 261-6628



謹賀新年

広島県神社庁長

吉川通泰

年頭に際し先ず以て皇統の弥栄と各御社頭の御栄を壽ぎ奉ります。

昨年は、武漢発の感染症に明け、感染症に暮れた一年でした。新型コロナウイルス感染症の猛威により、御大礼の掉尾を飾る立皇嗣の礼が秋に御延期となるなど、皇室行事を始め国民生活に深刻な影響を及ぼし、各神社の様々な神事諸行事が規模縮小または中止延期を余儀なくされ、第六十五回目の節目となるはずの県神社関係者大会も中止となりました。多くの方々の努力により着々と準備が整い、世界各国より選手団を迎え、華々しく開催する予定であった東京オリンピックもまた延期に追い込まれました。

そうした中、過酷な医療現場最前線に立ち、日夜、献身的に治療に従事される医療関係者を始め、政府、地方自治体、多くの方々の懸命なご努力に改めて敬意を表し心より感謝申し上げます。

古来、日本人は清浄を尊び、事あるごとに祓いを修し清めを大切にしてまいりました。自然を畏れ敬い尊重する謙虚な姿こそ日本の信仰であり、守り伝えて来た文化であります。そうした国民性が感染症予防に役立つものと思われれます。

各位には、健康にご留意の上、御社頭の奉護にご尽力下さいますよう、また疫病が一日も早く収束し、穏やかな代が訪れますようお祈り申し上げます。

非公表

非公表

- (イ) 例年と変わらず実施・実施予定の理由 (複数回答)
- ① 元々奉仕者が少ない 100.0% ② その他 25.0%
- (ウ) 中止する・中止を検討の理由 (複数回答)
- ① 奉仕者や見物人が密になるため 87.8% ② その他 (高齢者が多い、神酒拝戴の習慣があるなど) 12.2%

密になり飛沫が飛びやすい神輿渡御、獅子舞や稚児行列などの神賑行事は全体の60%以上が中止または中止検討と回答した。また、毎年実施している神社に絞ってみるとその数は72.4%に達し、7割を超えた。

中止の理由は、奉仕者や見物人が密になることや奉仕者に高齢者が多いこと、さらに渡御の途中に神酒拝戴の習慣があることなどの回答が寄せられた。

(4) 神楽など奉納行事の対応について【例祭】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 13社 6.5% 2 例年と変わらず実施・実施予定 … 4社 2.0%
- 3 中止する・中止を検討 …… 127社 63.5% 4 実施していない …… 38社 19.0%
- 5 未定 …… 11社 5.5%
- (ア) 対策をとり実施・実施予定の内容 (複数回答)
- ① 規模の縮小 61.5% ② 舞台や観覧場所の間隔確保 53.8%
- ③ 奉納場所を屋外に変更 30.8% ④ その他 0.0%

神楽などの奉納行事についても、全体の60%以上の神社で中止または中止検討と回答。毎年実施している神社でみるとその数は、78.4%と8割近くにのぼる。中止の理由は舞台や観覧場所が密になることやコロナ禍で舞手の練習ができなかったこと、さらに舞手や見物人に高齢者が多いことなどが挙げられている。

一方、対策をとり実施・実施予定では、規模の縮小、舞台や観覧場所の間隔確保などの対策が検討されている。

(5) 直会の対応について【例祭】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 75社 37.5% 2 例年と変わらず 実施・実施予定 11社 5.5%
- 3 中止する・中止を検討 …… 84社 42.0% 4 未定 …… 22社 11.0%
- (ア) 対策をとり実施・実施予定の内容 (複数回答)
- ① 参加人数や時間の縮小 33.3% ② 席の間隔を空ける 22.7%
- ③ 神酒拝戴のみ 38.7% ④ 弁当配布のみ 53.3%

例祭の直会については、37.5%が対策をとり実施・実施予定と答える一方で、42%が中止・中止検討と回答。その理由としては、密になること、飲食でマスクを外すこと、会話が弾むことなどが挙げられている。また対策としては弁当配布で直会の代用とする神社が半数以上を占めた。

(6) ご祈祷の対応について【雑祭】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 137社 68.5% 2 例年と変わらず実施・実施予定・ 11社 5.5%
- 3 中止する・中止を検討 …… 17社 8.5% 4 未定 …… 26社 13.0%
- (ア) 対策をとり実施・実施予定の内容 (複数回答)
- ① 神職・参列者マスク着用 83.9% ② 代表による玉串 36.5%
- ③ 手先や共用品の消毒の徹底 50.4% ④ 屋内の換気 65.7%
- ⑤ 席の間隔を空ける 70.8% ⑥ 柄杓や鈴緒廃止 24.8%
- ⑦ 郵送祈祷の導入 4.4% ⑧ その他 (予約制の導入など) 2.9%

県内神社の感染症対策に関する緊急アンケート報告書
広島県神社庁教化委員会

●はじめに

新型コロナウイルスによって、世界中が感染症のリスクに晒され、日本でも大規模な外出制限や休業要請、東京オリンピックの延期など、これまでに経験したことのない事態に陥っています。

斯界においてもその終息が見通せない中、秋の祭礼をはじめ、七五三詣、新春の正月行事など神社には人が集まる祭典や行事が重なり、神職の皆様のご苦労やご不安は如何ばかりかと推察申し上げます。

そこで、これまでの各社で行われている感染症対策を取りまとめ、情報を広く共有して、今後の神社の護持運営の参考にしていただきたく、今回「緊急アンケート」を実施しました。本務神社宮司の皆様には、大変にお忙しい中、短い期間にアンケートにお答えいただき誠に有難うございました。

過疎化・少子高齢化で基盤を失いつつある斯界にあって、今回の感染症による活動の縮小や中止が、一層地域の神社離れを加速させるのではないかという強い危機感が多く寄せられています。

氏子崇敬者をはじめ神社を参拝される皆様が安全かつ安心してお参りいただけるように、神職をはじめ神社関係者が一丸となり、知恵と工夫を出し合って、この難局を乗り越えていきたいと思います。

教化委員長 櫻井建弥

調査期間	令和2年8月18日～8月31日までの14日間	回答者数	200人(200社)
調査方法	アンケート用紙を郵送し、FAXまたは郵送で返送	回 答 率	64.9%
調査対象	本務神社 宮司308人(308社)		

(1) 神社名(支部名)・宮司名(神社名・宮司名は公表いたしません)

(2) 神前祭典について【例祭】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 164社 82.0% 2 例年と変わらず実施・実施予定 … 18社 9.0%
- 3 未定 …… 9社 4.5%
- (ア) 対策をとり実施・実施予定の内容 (複数回答)
- ① 神職・参列者マスク着用 78.0% ② 代表による玉串 40.0%
- ③ 参列者数を減らす(総代のみなど) 73.2% ④ 外部の奉仕による祭祀舞の中止 30.5%
- ⑤ その他(参列者なしなど) 11.0%
- (イ) 例年と変わらず実施・実施予定の理由 (複数回答)
- ① 元々参列者が少ない 72.2% ② 社殿が吹きさらし 61.1% ③ その他 22.2%

ほとんどの神社が例祭の神前祭典を実施し(中止は2社)、82%では対策をとった上で実施される。その内容はマスク着用、参列者の人数制限などの順となっている。

例年と変わらず実施・実施予定と回答した神社では、元々参列者が少なく密にならないためと答えた神社が多数にのぼった。

(3) 神輿渡御・獅子舞・稚児行列などの対応について【例祭】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 24社 12.0% 2 例年と変わらず実施・実施予定 … 4社 2.0%
- 3 中止する・中止を検討 …… 123社 61.5% 4 実施していない …… 30社 15.0%
- 5 未定 …… 14社 7.0%
- (ア) 対策をとり実施・実施予定の内容 (複数回答)
- ① 奉仕者の検温・マスク・消毒 70.8% ② 奉仕者を減らす 62.5%
- ③ 奉仕者の連絡先の名簿作成 16.7% ④ その他(神輿の代わりに榊で神幸など) 12.5%

参拝者と直接触れる機会の多い授与所では、マスク等の着用や手先消毒の徹底など国の指針に沿った対策が講じられている。37社ではビニールカーテンやアクリル板を、20社では授与品の見本(看板)設置または設置を検討。また授与所の対策は、全体的に沿岸部や都市部の神社で進んでいるように見受けられた。

(10) 職員の健康管理について【その他】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 142社 71.0%
- 2 例年と変わらず実施・実施予定 … 18社 9.0%
- 3 未定 …………… 25社 12.5%

(ア) 対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)

- ① 検温の実施 47.9%
- ② 健康状態の報告や記録 30.3%
- ③ 手先消毒、マスク、うがいの徹底 94.4%

多くの神社で職員の健康管理を実施している。例年と変わらずと未定と回答した神社でも「宮司一人で職員がいないため」などが理由で、宮司本人はマスクや消毒など健康管理を徹底されていると思われる。

(11) 社入金について【その他】…171社

- 1 減収 …………… 51.0%
- 2 やや減収 …………… 20.0%
- 3 変わらない …………… 12.5%
- 4 やや増収 …………… 0.5%
- 5 増収 …………… 0%
- 6 わからない・無回答 …………… 16.0%

このコロナ禍にあって、政府により緊急事態宣言が発出され、個人の外出や店舗の営業が制限されて経済活動は大きく滞り、ととし4-6月期の国内総生産はかつてない落ち込みとなった。

神社も例外ではなく、7割以上の神社が減収またはやや減収と回答し、やや増収と答えた神社は県北東部の1社のみであった。

●おわりに

今回の『県内神社の感染症対策に関する緊急アンケート報告書』では、毎年行われてきた神輿渡御などの神賑行事で全体の72.4%、また神楽などの奉納行事では78.4%が、それぞれ中止される見通しだ。また例祭の直会も多くの神社で弁当の配布で代用され、今回の感染症が神社から本来の賑わいを奪っている実態が明らかになった。

さらに普段のご祈祷やこれから本格化する七五三についても、感染リスクを理由に一部に取りやめた神社もあって、これまでに経験したことのない感染症への戸惑いの大きさを物語っている。

こうした神事や行事の縮小や中止は、神社存立の人的・経済的な基盤を揺るがしかねず、このところの過疎化・少子高齢化とも相まって、結果として「お祭り」の継続や継承を一層難しくする恐れが強い。このことに本務神社宮司から多くの不安や懸念の声が寄せられた。

ただ、こうした厳しい環境下において、ほとんどの神社で感染症対策を講じた上で例祭の神前祭典が執り行われ、混雑が予想される七五三や初詣についても、この夏の段階で半数の神社が何らかの対策を検討していた。中には新たにご祈祷の予約制の採用、あるいは郵送祈祷や郵送授与品または電子マネーの導入を目指す神社もあった。

ところで宗教法人である神社には、政府の判断で「持続化給付金」が支給されない。私達はこれからも知恵を絞って、自力で神社を「持続化」させていくしかない。世界規模で進む新型コロナウイルスへのワクチンや特效薬の開発には、もうしばらく時間が必要で、当面の間、私達は地道な努力を続けていかなければならない。特に初詣や七五三は国民的な行事で、対策の具体化を急がなければならない。

『安全で安心な秋祭り』、『安全で安心な七五三』、『安全で安心な初詣』を目指して、今回のアンケートが、広島県の神社関係者が一致協力してこの苦難を乗り切るための「きっかけ」になってくれればと切に願うばかりである。

普段の社頭でのご祈祷について、対策をとり実施・実施予定が7割近くを占め、中止・中止を検討と答えた神社も17社、8.5%あった。対策の内容は、神職や参列者のマスク着用、参拝席の間隔を空ける、屋内の換気、手先や共用品の消毒の徹底の順に多く、新たに予約制を導入した神社もあった。

例年と変わらず実施・実施予定と答えた神社は、参拝者が少ないから密にならないとする答えが多かった。

(7) 七五三詣の対応について【七五三】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 104社 52.0%
- 2 例年と変わらず実施・実施予定 … 19社 9.5%
- 3 中止する・中止を検討 …………… 20社 10.0%
- 4 未定 …………… 43社 21.5%

(ア) 対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)

- ① 早期の受付開始 29.8%
- ② 拝殿の人数制限 62.5%
- ③ 社殿や待合室の換気 67.3%
- ④ 代表玉串 19.2%
- ⑤ その他(予約導入など) 21.2%

混雑が予想される七五三詣については、半数以上の神社が対策を検討しており、全体の10%、20社は中止や中止を検討と回答。対策としては社殿や待合室の換気、拝殿の人数制限が半数を超え、早期の受付開始も3割あった。

例年と変わらず実施・実施予定と答えた神社は、参拝者が少ないことを理由に挙げている。未定の神社は21.5%、43社あり、対応に苦慮している様子も窺える。

(8) 初詣の対応について【初詣】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 98社 51.6%
- 2 例年と変わらず実施・実施予定 … 22社 11.6%
- 3 未定 …………… 70社 36.8%

(ア) 対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)

- ① 予約制の導入 24.5%
- ② 拝殿の人数制限 57.1%
- ③ 臨時の受付所や授与所の設置 17.3%
- ④ 授与品の見本(看板)設置 14.3%
- ⑤ 神酒など振舞いの中止 56.1%
- ⑥ 郵送祈祷の導入 7.1%
- ⑦ 郵送授与品の導入 5.1%
- ⑧ 電子マネーの導入 3.1%
- ⑨ 露店数の絞り込み 3.1%
- ⑩ その他(参拝者の流れを一方通行など) 17.3%

参拝者が集まる初詣の感染症対策は、極めて大きな課題である。半数の神社が夏の時点ですすでに対策を検討しており、その内容は、拝殿の人数制限や神酒など振舞いの中止などで、予約制の導入や臨時の受付所・授与所の設置を検討している神社も20社前後あった。さらに郵便等でご祈祷を受付ける郵送祈祷が7社、郵送授与品が5社、電子マネー導入を検討している神社も3社あった。

一方で、35%の神社は未定としており、これから年末にむけて氏子総代と相談して、感染症対策を本格化させるものと思われる。

(9) 授与所の対応について【その他】

- 1 対策をとり実施・実施予定 …… 87社 43.5%
- 2 例年と変わらず実施・実施予定 … 15社 7.5%
- 3 未定 …………… 68社 34.0%

(ア) 対策をとり実施・実施予定の内容(複数回答)

- ① マスク・フェイスガードの着用 85.1%
- ② 間口にビニールカーテンやアクリル板の設置 42.5%
- ③ 手先消毒の徹底 70.1%
- ④ 授与品の見本(看板)設置 23.0%
- ⑤ 書き置き朱印で対応 31.0%
- ⑥ 郵送授与品の導入 6.9%
- ⑦ 電子マネーの導入 3.4%
- ⑧ その他(マイトレイの導入など) 8.0%

『丹生神社』

【鎮座地】世羅郡世羅町大字甲山一五一
【宮司名】林 幸和

■木造獅子頭(国指定重要文化財)

もと今高野山の鎮守であった丹生神社に伝わるもので、右の頭の顎裏に「正安三年(一二三〇)無射中旬(九月中旬)彫刻此子獅子頭奉納/今八幡之宮随分丹誠明神納受矣/左兵衛藤原重幸」などの銘がある。左の頭は附指定で、やや時代が下り、南北朝時代のものでと推定される。いずれも黒漆塗りに金泥や朱による彩色が施されている。

国内にある獅子頭としては、三重県の伊奈富神社獅子頭(弘安二年・一二八〇)に次ぐ祈年銘のある鎌倉時代の獅子頭として貴重である。国の重要文化財に指定されている。



『赤屋八幡神社』

【鎮座地】世羅郡世羅町大字赤屋三八八
【宮司名】前田益弘

■懸仏(世羅町指定重要文化財)

大の方は直径二十四cm、地板に金銅の板をはり、中央に合掌する菩薩形坐像(舟形光背)を置き、左右に供花と花瓶を配し、下部に青海波を施している。獅子頭(「しかみ」とも言う)の金具は左右の彫成と大きさが異なり、右手の金具は後補と思われる。小の方は直径十六cm、地板に金銅板をはり、中央に(キリク)・阿弥陀如来の種子(古代インドのサンクリット語)を置いたいわゆる種子懸仏で獅子頭はそろっているが、蓮華座が欠損している。二面とも室町



『井原八幡神社』

【鎮座地】世羅郡世羅町大字伊尾二六〇四
【宮司名】林 幸和

■木造鬼面(世羅町指定重要文化財)

祭祀に使用された鬼の面で、木彫りに茶漆塗、眉の部分には黒塗がかかっている。頭部に植毛の跡が残っている。牙には金が塗られており、下顎の一部を欠損している他は、元からの姿をとどめている。

井原八幡神社は社歴では、康保元年(九六四)、伊尾・小谷・松崎の氏子たちにより、宝札が納められたと伝え、神社は現位置より東方一町(約一〇九)余離れた北沼にあつたものを移したという。南北朝時代の暦応二年(一三三九)に再建その後、明応二年(一四九三)・慶長二十年(一六一五)・元和五年(一六一九)・元禄四年(一六九一)と再建されている。神社には古くは多くの古面が伝えられていたとされるが、現在はこの鬼面のみとなっている。



■太鼓(世羅町指定重要文化財)

神社の記録に「陣太鼓」として記されているもので、太鼓の外側に「文和三年(一二三四)ヨリ五百七十五年、昭和三年(一九二八)三月吉日張改/五度目願主/氏子惣代伏原新作」の刻銘がある。太鼓の内部に「文和三年二月一日」「慶長九年(一六〇四)」「万治二年(一六五九)」「元禄十六年(一七〇三)」「天明三年(一七八三)」「張替修理の際の墨書がある。南北朝時代に造られ、今日まで張替修理のわかる貴重な太鼓である。直径五十八cm、幅五十四cm。

県内に見ても古式の太鼓で、広島県重要文化財に指定された、浄土寺(尾道市)の太鼓(正和五年・一三一六年)に次ぐ古式の太鼓である。なお、世羅町大字東上原の八幡神社の太鼓(県重文)には、文明十八年(一四八六)の墨書がある。



■太刀(世羅町指定重要文化財)

江戸時代末に書かれた「備後古跡志」に、世羅町大字小谷に伝わる平家伝説が載っている。これによると、文治元年(一一八五)の屋島の戦いに敗れた平家の武将、刑部卿 平教益が六人の家臣とともに現在の兵庫県の室津に流れ着き、そこから陸路備後国に入り、平家領であった大田庄の一角である小谷に逃れて来たというものである。

この太刀が納められている井原八幡神社の記録には「野太刀」として、前途の平教益が小谷村へ着いた年に奉納したと伝えている。鍔身のため地刃の状態は不明であるが、刃渡り九十四cm、全長一二九・五cm。



『世良八幡神社』

【鎮座地】世羅郡世羅町大字小世良三二八
【宮司名】林 幸和

■木造狛犬(世羅町指定重要文化財)

この狛犬は、奈良・大神神社の狛犬像に似た形のもので、上体をまっすぐに伸ばし、荒々しい獣性を感じさせる。頭部の鬣(こま)は三段(三段)までと胴部が二つに分かれる形式のもので、町内の他の狛犬とは異なった体軀をしている。像高は七十四・九cmある。

狛犬には正平三年(一二四八)の墨書があつたとされている。頭部とそれ以下が二つに分かれる様式の狛犬は県内では珍しいものである。昭和の修理により彩色が施されているが、南北朝時代の狛犬の特徴を伝える彫刻として貴重である。





初詣の新型コロナウイルス対策をテーマに、十月二十九日、広島市のホテルセンチュリー21広島で『教養研修会』が開催された。

会場には広い部屋が確保され、検温、マスクの着用、アルコール消毒と感染症対策が徹底されていた。各神社二名までという制限があったものの全部で七十五名の参加があり、また新聞やテレビ局六社が取材に訪れ、神社界だけでなく世間一般の関心の高さも伺えた。

研修会は二部形式となっており、はじめに広島大学病院副院長の大毛宏喜教授に「感染症対応の考え方」についてご教授いただいた。

それによると、今回の感染症は飛沫による感染が主で、飛沫感染対策が最も重要である。閉鎖空間、近距離での接触、マスクなし、一定時間の会話の「四つの感染条件」がそろったときに感染リスクが非常に高くなることが強調された。

ただ、初詣は基本的に屋外であり、マスク着用、アルコールでの手指の消毒などで感染リスクはかなり抑えることができる。しかし、不適切なマスクの着用、消毒が不十分になりやすい手首や爪の甲の消毒等ができていない人も多く、あらためて確認する必要があると感じた。

大毛教授によると、重要なのは、神社がいかに対策をしっかりと行っているかを参拝者に知らせること、それが『安心な参拝』につながる。そのためにも、境内各所に張り紙をし、HP、SNS、看板などを用いて、対策を分かりやすく周知・アピールする必要があるとの話だった。

そして何よりも、神職間で感染者を出さないことの大切さを訴えら

新型コロナウイルス感染症対策研修会

広島護國神社 権禰宜 後藤哲史



旧聞に属するが、昨年八月十七日、広島護國神社では、広島大学病院感染症科 大毛宏喜先生をお迎えし「新型コロナウイルス感染症対策について」と題して研修会が開催された。現下のコロナ禍の中、如何様に初詣を迎えればよいのか、どのような対策を取れば参拝者に安心してお参りして頂く事が出来るのか、その一助になればと開催されたものである。以下、その概要を記します。

先ずもって年内の早い時期に、神社の感染対策を周知・告知しておくことで「初詣は安心」という認識を広める事が何より大切である。感染リスクが高い要素としては①閉鎖空間②近距離での接触③マスク無し④一定時間の会話等があり、これらが重複すれば感染の確率は高くなる。逆にこれらが屋外であれば、感染リスクは当然低くなる。当初は未知のコロナウイルス感染への恐怖のあまり、過剰な対策、自粛警察、感染者への差別等が見えられたし、メディア等でも「コロナは危ない。危険だ。」と煽るコメント・ターダは、次々とテレビに出演していたが、何故か私は絶対に呼ばれませんでした(笑)

ウイルスは目に見えないし、感染予防一〇〇%を目指しても無理である。どんなに頑張っても感染する人は一定の割合で発生する。因って現在では、適切な感染対策を取っているか否かに関心が移りつつある。要は現時点で出来る事(マスク・手洗い・体調管理)を積み重ねることが確実な感染予防になるのである。

本日の研修会のメインテーマである初詣の感染対策については結論から言うと「初詣は大丈夫ですよ」「当社ではこれだけの感染対策をして

いますよ」と告知できるように準備を進めておくことが大切。具体的に①境内での人の流れと距離を取る誘導、すなわち人の流れをコントロールすること②手水の扱い方③巫女さんの感染防止策をどうするか④授与所でのお金や授与品のやりとり⑤トイレ対応等の対策が重要。

広島護國神社の場合、例年とは違い参拝者の導線を一方通行にできないものか。それさえ可能ならば、参拝者は同じ方向を向いている事になり、その上で皆が、マスクを着けていけば大丈夫であろう。巷に言われる一m間隔開けるのは初詣の場合、現実的ではない。完全一方通行の利点は、顔の向きが一方である事。デメリットとしては、境内の配置の大幅な変更を要する事と、神社だけで無く露店等への影響が考えられるので、行政・警察・警備・露店商組合等との綿密な話し合いが必要と思われる。

各神社の個別対策事項としては①お参りが三ヶ日に集中しないよう分散参拝の呼びかけ②授与所では、参拝者にお守り等を直接触れさせる事は望ましくない③御籤は素手で取つてもらう場合には、近くにアルコール液を置いておくこと等である。また、今の世間一般の空気としては、人と人が接触する場合には、二メートルの仕切りが無いと不安であるとの風潮があるが、科学的根拠と世間の空気は明らかに別物である。ちなみに広島大病院では受付に仕切りはしていない。又、神社職員間での感染防止対策としては、食事・休憩の時間をずらす事も大切である。

本日のまとめとして、何事においても感染対策の基本に忠実である事。「初詣は安全」と言う啓発活動が十二月には開始できるよう、今からその為の準備、対策を進め「初詣は安心してお参り下さい」と言えるようになり組みが大切である。と話の最後を締められました。

広島県神社庁教化委員会が、県内神社を対象に実施された「県内神社の感染症対策に関する緊急アンケート報告書」の結果報告を踏まえ、それぞれの御社の環境は様々であるが、参拝者が安心してお参り出来る環境の整備、そしてそれに伴う情報発信が肝要であろうと思われる。

教養研修会報告

速谷神社 権禰宜 小野雄生

れた。万が一職員に感染者が出た場合は発症の二日前まで遡ってマスクなしで接触した人(濃厚接触者)をリストアップすることになり、濃厚接触者は出勤停止となつて、社務に混乱を招く。こうした事態にならないためにも、神職や巫女はリスクの高い行動を控えるべきで、特に「四つの感染条件」がそろつた忘年会などは要注意だとの指摘だった。年末年始を迎え、職員だけでなくアルバイトの巫女に対しても、みなが理解し、責任ある行動をとるよう事前に周知する必要性を痛感した。

第二部では、「各神社の対応についての事例報告」が行われ、三つの神社と一つの支部が実際に初詣に行う対策について説明し、情報を共有した。

主な対策としては、参拝経路の一方通行化、祈祷の人数制限、インターネットを活用した祈祷やお守りの受け付け、おみくじ、絵馬かけの撤去などが挙げられていた。

また、「幸先よく新年をお迎えしましょう」ということで、年末の「幸先詣」など三が日にこだわらない分散参拝を広く呼びかけていきたいという意見も出された。各神社から様々な感染症対策が提案され、非常に参考になる有意義な研修会となった。

過去にこのような事例がないので不安はつきないが、「準備期間は十分にある」という大毛教授の言葉に力をいただいた。備えあれば患いなし。神職一丸となつて参拝者が気持ちよく新年を迎えられるよう努めていきたいと強く感じた。





今年、特に留意すべき点や工夫の仕方など重要なお話がいくつもあり、増頒布に向けて細心の注意を払いながら努力したいとの感を強くいたしました。

(郡山龍 通信員)

尾道御調支部

「神宮大麻暦頒布始奉告祭」

十月十六日、尾道御調支部(豊岡高和支部長)は令和二年度神宮大麻暦頒布を控え、尾道市長江の良神社に於いて、神宮大麻暦頒布始奉告祭が執り行われました。

祭典当日は、爽やかな秋晴れのもと、少し離れた尾道の駅から線路の横を伝い、つかの間の日差しを浴びながらロープウェイの麓の境内まで行きました。

今年、三密を避けるため、支部の各神社から一各代表が参列し、拝殿の部戸の上半分を跳ね上げ、下半分を取り外した解放的な空間の中、みなさん静かにお待ちになりました。

典儀を務める高御調八幡神社の前田益弘宮司が厳かに開始を告げ、永井利果宮司により祭典が厳粛に執り行われました。祭典の後、豊岡支部長から神宮大麻暦頒布の取り組みに関して今年、特に留意すべき点や工夫の仕方など重要なお話がいくつもあり、増頒布に向けて細心の注意を払いながら努力したいとの感を強くいたしました。

(河野しんや 通信員)



この度、大山神社(巻幡俊宮司)に新しく楠庭が誕生しました。大山神社には樹齢数百年の楠があり、周辺には大島石五十五段の一本石の石段(地元ではがんぎと呼ばれています)と注連柱、高さ五メートルを超える一対の石燈籠等、大正五年から六年にかけて整備された豪快な石物群がごぞいます。

石垣周辺は幹線道路で、児童生徒の登校道路でもあります。楠の根の成長により崩落の危険がある状態になっていました。もし、豪雨災害等があれば地域に甚大な被害が及ぶ可能性もありました。楠を切る事やコンクリートで擁壁を作るという提案もありましたが、楠を生かし、景観を優先する事とされたそうです。工事は緊急措置として全額神社負担工事となりました。

百年に一度あるかないかの保全工事として、折角ですので、地域や参拝者の皆様様が清々しい心持ちをお持ち頂けるよう庭風とされ、石垣の外周に根を囲む形で石積みが行われ、古来の井戸水と水道水を併用し、水中ポンプによる循環式落差二メートルの小滝と池が配置されています。

(河野しんや 通信員)



三次市は同市三次町の太歳神社(小原広教宮司)境内にトイレと広場を整備する。近くに妖怪博物館が開館し、古い町並みが残る同町一帯を散策する人の利便性向上を図る目的。同町出身の人気アニメ映画の建築デザインを手掛ける建築家(谷尻誠さん)の事務所設計を依頼した。

広場は約七十坪で近くにある鳥居や狛犬などの石像物をイメージし、コンクリート造りのトイレを設置する。三次本通りの電線地中化や商家修復などの景観整備を進めてきた市の歴史的街なみ環境整備事業の一環です。工事費約二千万円が計上されている。

三次に伝わる江戸時代の妖怪伝説「稲生物怪録」に着想を得た漫画「朝霧の巫女」に登場する太歳神社は、ファンの間で「聖地」として親しまれており、三次市都市建築課は町歩き途中に一休みできる新スポットになればと期待している。令和三年の初詣までには完成を予定している。ぜひご参拝ください。

※中国新聞記事参照

(福田秀実 通信員)

事務局だより

【訂正】前号の庁報(一四二号)のP32、誤記がありました。

令和二年 広島県神社庁

広島県神社総代連合会 表彰

広島県神社総代連合会 三十年勤続特別表彰

(誤)山県西 碓神社責任役員 瀬戸一彦

賀 茂 河内神社責任役員 亀井承經

比婆東 八幡神社責任役員 和木博史

松賀神社責任役員 蓮池光志

八幡神社責任役員 高橋成忠

(正)広島市 碓神社責任役員 瀬戸一彦

山県西 河内神社責任役員 亀井承經

賀 茂 八幡神社責任役員 和木博史

賀 茂 松賀神社責任役員 蓮池光志

比婆東 八幡神社責任役員 高橋成忠

茲に謹んでお詫び申し上げますと共に訂正致します。

支部だより

広島市支部

「幸先詣」

コロナ禍での年末年始の動向に注目が集まっている。政府は年末年始の休暇の拡大、分散を呼びかけ、人の流れが集中することがないよう求めている。神社界でも初詣の感染防止策に頭を悩ませていることだろう。

そうした中、広島市支部内において、防止の対応として研修会等を受けながら対策の一案として「幸先詣」を提案している。これは新型コロナウイルス感染症予防対策として、早めに御神札・破魔矢・縁起物などの頒布を始めることで、初詣の混雑を分散させると同時に滞留を防ぐことを目的とするものだ。また年末のお礼参りの習慣づけ、御神札・縁起物等を早めにする。正月の準備を整え元旦を迎えることを促すことにも繋がる。期間は正月事始めの十二月十三日をスタートの目安とし、年末まで実施するものである。このような取り組みは他県でも行われている。執筆時点では福岡県神社庁が同様に「幸先詣」の事業を推し進めている。

この幸先詣、初詣を通じて、参拝者により明るい気持ちになつていただき、この社会状況が良くなることを願っている。

(池田憲明 通信員)



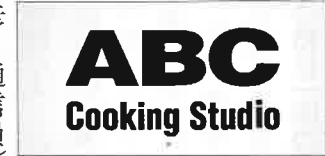
三原支部

「料理」

コロナの影響でステイホームが増えました。私事で恐縮ですが、八月からABCクッキングスタジオにて料理を習い始めました。美味しい料理を作つて、免疫力を高めコロナ対策したいと思います。料理基礎クラスでは包丁の使い方や素材の切り方から乳化など料理の知識、各料理のポイントを学びます。例えば、オムライスであれば炒め加減で玉ねぎやバター、甘味や風味を損なわないようにします。

レシピ通りに作っても、その人の味覚や手際、感覚、素材を選ぶ眼に個人差があるため多様性が生まれます。食が脳や体を作るのですから、自分に合った食べ物を食べることが大切です。個人的には、プリンスオブウェールズ(紅茶)にブドウ糖三gを入れて飲んだり、白ブドウジュースが風邪など細菌・ウイルスに効きます。今度、挑戦したいのは妹尾河童さんが薦めるピエンローという白菜の鍋料理です。キノコや肉、春雨と煮て塩で味付けし、絶品との評判です。直会に簡単な料理が出せるよう精進したいです。

(桑原光彦 通信員)



ABC
Cooking Studio



(右端が松本 幸市さん)

以下自己紹介

令和二年九月一日付けにて大崎上島町木江に鎮座する厳島神社禰宜を拝命いたしました松本幸市、三十五歳です。島で生まれ育ち、過疎や高齢化が進む地域に新たな活力をもたらす場所として、約六年前より移住体験型シェアハウスや住民との交流を目的とした宿泊施設ゲストハウスなどを運営し、島外から来られる方々との関係性を自然と作ることを目的とした仕事をしてい

ます。世代や価値観を超え、一つの思いを作り上げる。お祭りが子供のころから大好きで、感情沸き立つような祭りの日の体験が今の仕事の基礎ともなっています。

社家でもない私が神職の道を進もうと思ったのは、四年ほど前から氏子総代としても神社に関わらせてもらう中で、大好きな祭りを次の世代に手渡そうと尽力されている同年代の仲間が存在があったからです。今後は神職として祭りに関わり、地域と子供達の未来のため精一杯ご奉仕して参りたいと思います。

(梶山政孝 通信員)

支部だより

て、新型コロナウイルスを祓い退け給いて、来年こそ例年のごとく賑やかな秋の祭となるように祈願し、例祭を無事斎了されました。



(磯川浩之 通信員)

庁報誌「二葉」第143号をお届けします。

お忙しい中、原稿執筆を引き受けて下さった皆様方に対し、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、各御社頭ではこれまでとは少し違った形で新しい年を迎えたことと存じます。本年がより良い年になりますよう祈念すると共に、神社関係者の皆様、また何より各奉務神社の氏子崇敬者皆様方のご健康を心よりお祈り申し上げます。

庁報編集委員一同

編集後記

安佐支部

「夏越の邪気祓い」

安佐南区祇園に鎮座する安神社(牧原昌史宮司)では、毎年七月下旬に下居祭、夜待祭が二週に渡り盛大に斎行されるが、今年はコロナ禍の影響で中止となった。しかし、地域を少しでも元気づけたいとの声もあり、氏子の疫病退散、無病息災を祈念して、湯来町の下五原神楽団が「鐘馗」と「大蛇」を奉納した。

この奉納神楽については地域に殆ど告知していなかったが、午後七時の開始前から数十人が集まり、途中小雨が降る空模様でも、演目が進むうちに百人を超えるほどになった。子供は神楽の舞を真似て踊り、大人達にも笑顔が見られた。そして最後の大蛇退治では迫力の演技を堪能して、盛大な拍手をもつて幕を閉じた。

神楽に見入った人々の自然な表情や歓声に、触れ、日常の大切さ、有難さを痛感させられた夜となった。一日も早い新型コロナウイルスの終息を願いながら家路についた。

(岡西亮太 通信員)



安芸高田支部

「毛利元就公墓前祭」

令和二年七月十六日、戦国時代の武将毛利元就公の遺徳をしのび、元就公没後四百四十九年目の墓前祭が元就公ゆかりの安芸高田市吉田町郡山麓鎮座の清神社により執り行われた。宮地山神社穂田公男宮司が祝詞を奏上、毛利奉賛会会員が玉串を奉奠した。明治以前は仏式で行われていたが、明治三年の三百年祭から神祭に変わり、毎年郡山城跡の墓所で墓前祭が営まれている。

例年毛利家、豊栄神社、菩提寺洞春寺など、それぞれ縁ある地から多くの参列があつたが、昨年末から顕在化した新型コロナウイルス感染症が、今なお社会に大きな影響を与えていることから奉賛会会員のみの墓前祭となった。

毛利元就公は明応六年(一四九七)に生まれ、元龜二年(一五七一)六月十四日、吉田町の郡山城において七十五歳の生涯を遂げた。来年は没後四百五十年の大きな節目を迎える。新型コロナウイルス感染症の状況は先を見通せず、混沌としているが、大きな節目として相応しい墓前祭が挙行できればと考えている。

(波多野邦彦 通信員)



深安支部

「東法成寺山王神社例祭」

東法成寺に鎮座する八幡神社(徳永淡路宮司)の境内末社として山王神社が祀られている。古くから山王信仰があり、比叡山の神として、山王権現とも呼ばれ、山岳信仰と延暦寺の天台宗と融合し、神仏習合の神として崇められてきた。祭神は、大山咋神と大物主神である。東法成寺では、山の神として認識されている。

毎年九月十四日の午後三時から祭典が斎行される。通常、例祭は午前に行われるのが一般的だが、何故午後に施行されるか不明である。

祭典には、その年の八幡神社のお供え物(炊いたごはん(ゴックウ)と煮しめ)を準備する本棟家(毎年各地区持ち回りする頭屋)、神社総代九名が参列した。コロナ対策として、マスクを着用した。祝詞に於いて、コロナ終息・収束を合わせて祈願した。直会では、お供えされた煮しめ、御飯をいただいた。



(徳永淡路 通信員)

呉支部 「高尾神社 本殿遷座祭」

高尾神社(梶山友美宮司)は、焼山宮ヶ迫(現在鎮座地より西北西)より現在地に移って四百五十年の節目の年を迎え奉祝事業を行っています。

その奉祝事業の一環として御社殿改修に取り組みました。平成三十一年二月二十四日に起工しこの度竣工となりました。この九月二十六日(土)午後六時三十分より本殿遷座祭が行われ御祭神が本殿に遷座されました。御祭神が仮殿にお遷りにな

れてから五八一日になります。宵闇の中、先導の神職、建築委員の陰

灯、絹垣、敬神婦人会の提灯

が列をなし、仮殿から本殿へ

厳かに進まれました。コロナ

禍の中約三十人が行列に参

加されました。本殿に遷座の後、

梶山宮司が祝詞を朗々と述べ遷座

祭は執りおさめられました。最後に

宮司より建設委員・敬神婦人会・施工

の方に対してお礼を述べられ散会と

なりました。

十月三日には遷座四百五十年奉祝

祭が午後二時より執り行われ、遷座

祭より多くの方々が参列し節目の年を

祝いました。

(横田光則 通信員)

支部 だより

府中芦品支部

「本殿屋根替え第一回見学会の開催」

福山市新市町宮内に鎮座する備後一宮の吉備津神社(追林貴之宮司)では、国指定重要文化財の『本殿』の保存修理工事(檜皮屋根の葺き替え及び外内部の塗装)を、おこなっています。工事も約三分の一程度、順調に進み、屋根工事の桧皮葺(上軒付積)が始まり、見頃を迎えたことなどから、九月二十六・二十七日の両日、一般見学会をおこないました。見学会に先立ち、報道機関を対象とした説明会を実施し、工事の進捗状況・新発見事項の公表とともに、一般見学会の開催要項の周知を依頼しました。今回の一般見学会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、三密にはならないよう、一回

の見学を最大十人までとし、一日二回の計六回(最大六十

名)として、参加希望者は「往復はがき」による申し込みを

行って頂きました。その結果、二百四十五通(約四百五十

人)の応募があり、厳正なる抽選の

結果、六十名の方々に見学していただき

ました。

見学会への参加者およびスタッフは、高所

に上るためのヘルメットの着用をはじめ、

全員マスク・検温・手指の消毒、現場移動の際

には前後の間隔を保つことなどを注意して

実施しました。今後も、社会の動向を踏まえ

ながら、より一層の感染防止対策をおこな

い、第二回目的一般見学会が実施できる

ように、取り組んでいきたいと思ひます。

(尾多賀晴悟 通信員)

